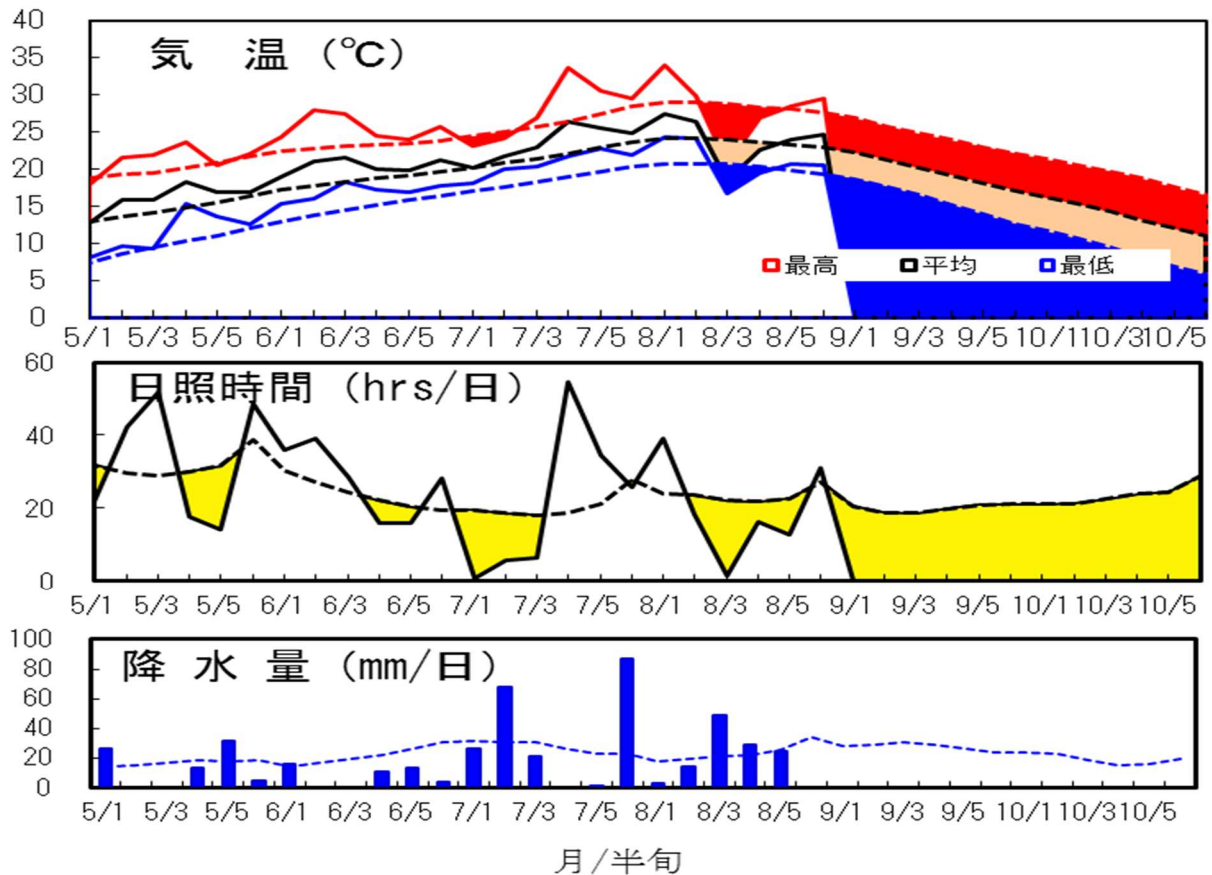


～7月中旬以降の好天により生育回復 排水・防除対策を～

1 気象経過



- ・7月上旬は、平均気温は平年並みとなったが、降水量は平年を大きく上回り、著しい寡照となった。7月中旬は、高温、多照、少雨となった。

◆東北地方の1か月予報(9月4日～10月3日までの天候見通し)

- ・東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・気温は、高い若しくは平年並みの確率30%、低い確率40%。
- ・降水量は、多い若しくは少ない確率30%、平年並みの確率40%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉

【気温】東北太平洋側	40	30	30
【降水量】東北太平洋側	30	40	30
【日照時間】東北太平洋側	40	30	30

2 生育状況

【宮城県古川農業試験場 作況試験より】

① 5月25日播種(タンレイ・ミヤギシロメ)

- ・7月中旬以降の高温・多照により主茎節数は平年並みであるが、主茎長は平年を下回り、分枝数は平年を上回っている。

・開花期は、「タンレイ」で平年より4日早く、「ミヤギシロメ」では平年より5日早かった。

② 6月15日播種（ミヤギシロメ）

・主茎長は89cm, 主茎節数は15.7節, 分枝数は3.6本, 総節数は36節である。開花期は8月6日であった。

③ 7月2日播種（タンレイ）

・出芽後は高温・多照で経過したため, すべての調査項目で平年を上回っている。開花期は平年より2日早かった。

◆7月中旬以降の高温・多照により, 生育は概ね平年並みに回復した。

生育調査結果（8月10日調査）

播種期	品種名	開花期（月/日）			主茎長(cm)		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25	タンレイ	7/21	2日早い	4日早い	63	-14	-17
播種	ミヤギシロメ	7/27	7日早い	5日早い	98	-9	-8
6/15播種	ミヤギシロメ	8/6	-	-	89	-	-
7/2播種	タンレイ	8/9	4日早い	2日早い	57	24	14

播種期	品種名	主茎節数（節/本）			分枝数（本/本）			総節数（節/本）		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25	タンレイ	15.4	0.0	-0.5	5.1	0.9	1.0	43.0	2.0	-1.0
播種	ミヤギシロメ	18.3	0.8	0.1	4.6	0.1	0.5	49.0	4.0	3.0
6/15播種	ミヤギシロメ	15.7	-	-	3.6	-	-	36.0	-	-
7/2播種	タンレイ	11.8	4.2	2.5	1.7	1.7	0.7	19.0	11.0	6.0

【5/25播種 タンレイ】

【5/25播種 ミヤギシロメ】



【7/2播種 タンレイ】

【6/15播種 ミヤギシロメ】



3 今後の管理

1 排水対策

- ・収穫は天候に大きく左右され、排水が悪いと収量・品質が低下する。
- ・収穫作業に備え、ほ場周辺の排水対策を講じておく。

2 病害虫防除

◆マメシクイガ、タバコガ類の防除法については、前号（第2号）を参照されたい。

- ・宮城県病害虫防除所が発表した「発生予報第5号」によれば、「紫斑病」及び「吸実性カメムシ類」の発生量は「やや多」と推測されている。
- ・本年は7月第6半旬以降の降水が多く、開花期にあたっていることから、紫斑病の発生が多いと考えられる。特に、「タンレイ」では発生が多いので、2回の防除を徹底する。
- ・6月中旬以降に播種した「晩播栽培」では、前記「生育状況」のとおり8月上旬に開花期を迎えている。晩播栽培における防除適期は9月上旬から中旬であり、下図を参考にして防除を実施する。
- ・紫斑病は害虫との同時防除が可能である。大豆の生育ステージをよく確認し、適期に効率的な防除を実施する。
- ・「べと病」については、明渠や暗渠の補修・点検を行い、排水対策を徹底する。また、紫斑病との同時防除が可能であるが、発生が著しい場合は単独防除を実施する。

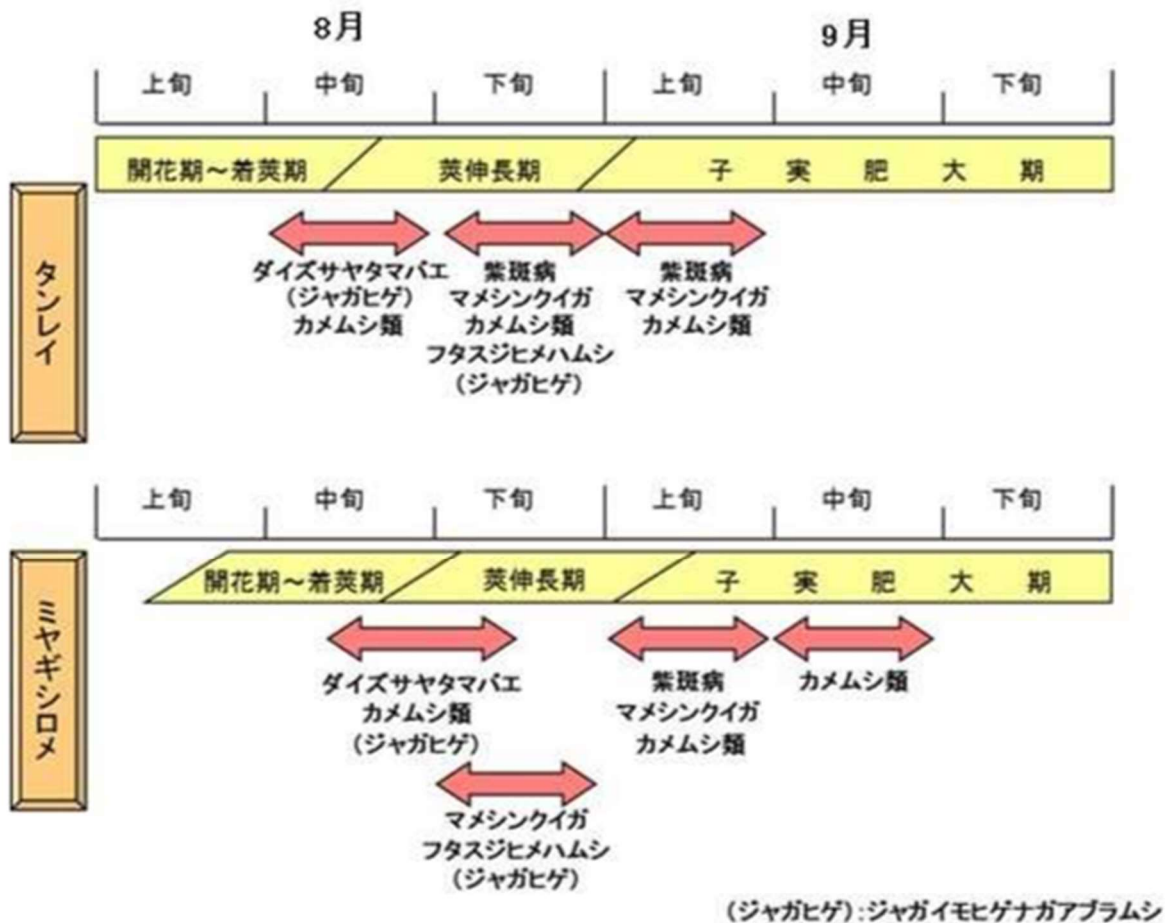


図1 大豆病害虫の同時防除体系図

※ジャガイモヒゲナガアブラムシは密度が高い場合に単独防除を実施する。

※マメシクイガ、フタスジヒメハムシは品種が異なっても発生時期は変わらない。

【病害虫防除所 HP より】